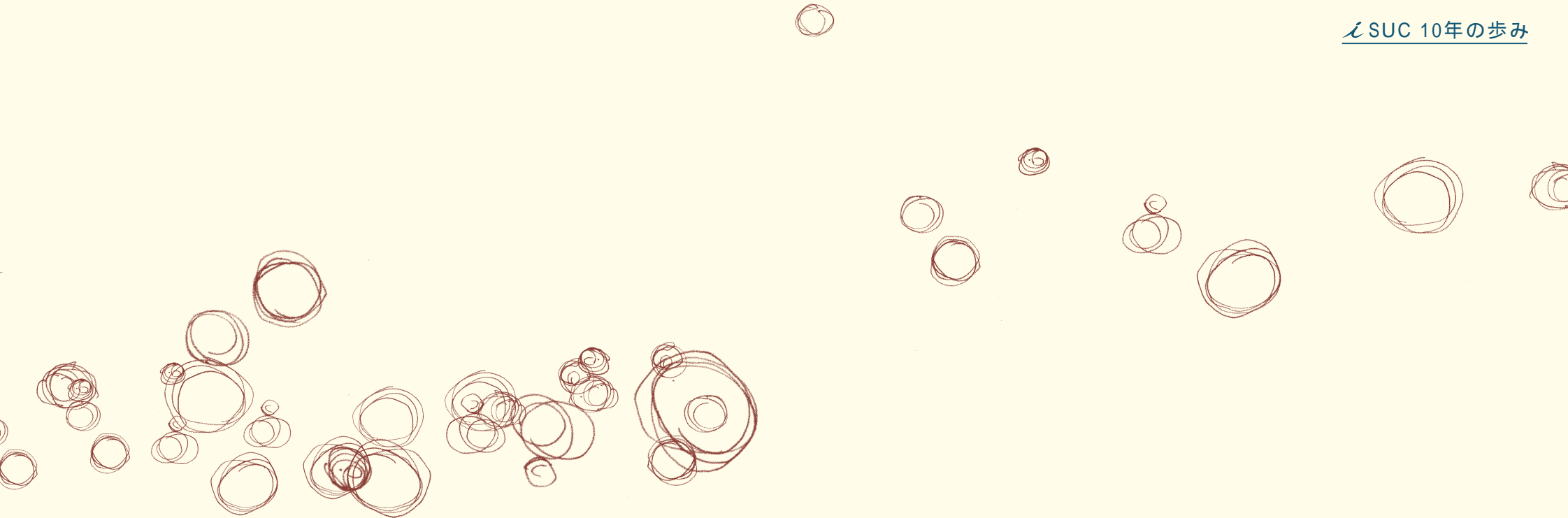


発行日 : 1999年9月1日 発行 : 第10回iSUC 実行委員会
編集 : 「iSUC10年の歩み」編集委員会
編集長 : 上野政男 ㈱ビー・エス・ジャパン
編集委員 : 西條一男 ㈱アロマカラー
久保義弘 ㈱鉄道会館
富吉純司 日本アイ・ピー・エム情報ソリューション㈱
竹久保忠幸 ㈱ホテル小田急
杉本 久 ㈱山種システムサイエンス
編集室 : 〒106-8711 東京都港区六本木3 - 2 - 12
日本アイ・ピー・エム㈱本社内 iSUC事務局
Tel (03)5563-5880 fax (03)5563-4980
e-mail ISUC@jp.ibm.com
URL <http://www.uken.or.jp/isuc/>

iSUC 10th

iSUC 10年の歩み



CONTENTS

03	iSUC 10周年を記念して
04	ごあいさつ
06	iSUCとは何か
08	第1回大会「SOLUTION—人と技術と情報の世界」
10	第2回大会「SOLUTION—人と技術と情報の世界」
12	第3回大会「NETWORKING—人と技術と情報の世界」
14	第4回大会「OPENNESS—広がる情報の世界」
16	第5回大会「HARMONY—人とコンピューターの新しい調和」
18	第6回大会「NATURAL—より自然なこれからのコンピューター利用」
20	第7回大会「チャレンジ&アクション—変化に対応して」
22	第8回大会「知的アドベンチャー—君の知らない世界が開拓がる」
24	第9回大会「eXCITING—わくわくする未来が君を待っている」
26	第10回大会「21世紀への序奏—Now,Sailing!」
28	第10回 iSUCを迎えて想うこと
30	iSUC参加者の声
32	信義則
34	iSUCデータ集
35	iSUC用語集
36	思い出のアルバム
38	付録「夢の電話・iSUC編」

iSUC 10周年を記念して

一羽の野鴨が舞い上がった水面に、いま10本の波紋が大きく広がります。

1990年10月、つま恋で第1回大会を開催したiSUCは今年で10回目。

初めはアメリカのCOMMONをお手本にしたものの、素人の情熱だけが元手、善意の力添えだけが支えの、思いっきり手づくりの集まりとして出発しました。おぼつかない足どりはチームワークでカバーし、ひたすら走りに走りました。職場を離れることが多くなるから、本業はいつも以上にちゃんとしてよ、というのが実行委員の間での合い言葉でした。

幕を開けたiSUCの高い理念と充実した内容は、参加した皆さんを納得させるに十分なものでした。目に見えませんが、運営を担当した人たちのなんとか次回につなげようという熱意も、強いフェロモンとして作用したのでしょう。規模を大きくしながら、2回、3回と回を重ね、なんと今回、ついに10回を数えるのです。これまでiSUCを支えてきた皆さんの第10回大会に向けた温かいまなざしには、「ここまで来ることができた」という深い想いが感じられます。

毎回、新しい仲間を迎えながらiSUCは、出会いの数だけコミュニケーションの輪を拓げていきました。そして、いまやだれも次回のiSUCはない、などと考えることもできないほど、確かに大きな集まりとなりました。このようなiSUCの歩みを振り返り、その存在意義と可能性をここで今いちど確かめてみたいと思います。



時代の最先端をiSUCとともに

杉本 久

第10回iSUC実行委員長(株)山種システムサイエンス 常務取締役)

「待ち望まれていた大会が、ついに実現した。10月17日(水)、つま恋、快晴。午前11時、第1回中・小型ユーザー・コンファレンス<iSUC>の幕が切って落とされた」このフレイズが大好きです。私はこの日のことをよく覚えています。そして・・・10年。

ここに作成した「10年史」は、ユーザーの皆さんで育て上げた成果の結晶として、集大成したものです。過去に参加した皆さんにとりましては、思い出深いものであり、コンピューター技術の習得についても、このiSUCで吸収したものが大きかったのではないのでしょうか。21世紀に向けて、私たちを取り巻くコンピューター技術はさらに飛躍的に発展していくことですが、この大会に参加している限りは、常に時代の先端を行くリーダーとなることができます。



先見性あふれる研鑽の場として一層の発展を

北城 恪太郎

日本アイ・ピー・エム(株)代表取締役社長

iSUC10周年を心からお慶び申し上げます。技能研鑽を目的とする、お客さまご自身の手づくりの大会として産声を上げて以来、回を重ねるごとに規模・内容ともに充実させてこられたのは、情熱をもって会の開催に努力されてこられた各回の実行委員の皆さま、および陰にあって円滑な運営を支えられてきたボランティアの皆さまの献身的なご努力があったからにほかなりません。

外部の調査で、弊社のAS/400は常に高いお客さま満足度を頂戴していますが、これもひとえにiSUCにおける研究や、私どもに対するお客さまからのご要望・ご提案をいただいた成果と深く感謝しております。今後とも、時代に即した先見性あふれる研鑽の場として、iSUCがお客さまとともにさらなる発展を続けられることをお祈り申し上げます。



ユーザー自身による内容本意の活動の継続を

中原 祐嗣

全国IBMユーザー研究会連合会会長(旭硝子(株)情報システムセンター長)

iSUCは、第1回を関東研の主催で出発しました。しかし、その高度で充実した内容は全国行事に値するとの声が高まり、第2回からは早くも全国研主催の行事として認知され、広く門戸が開かれたのです。以来、春のシンポジウム、秋のiSUCと、全国研活動の両輪として発展を続け、第7回目ではついに千人を超えて日本のユーザー大会としては希にみる大きな会へと成長しました。

現在、技能研鑽を中心としたiSUCの活動と自助の精神は、各地区研におけるシステム研究会とともに大きな輪を広げています。ユーザー自身による内容本意の活動はユーザー会の本筋であり、今後ともこのような基盤強化が、iSUCを中心に発展的に継続するよう希望します。



Greetings from North America, and welcome to iSUC '99!

David Hildebrandt

President

COMMON North America

I am pleased to have the honor of welcoming you to the 10th Anniversary of iSUC, Japan's largest group of IBM and IBM-compatible information technology users. No one can understand the amount of time and dedication it takes to host a conference until they have done it themselves. Please take a moment and thank the iSUC staff for a job well done.

We feel a closeness with iSUC as this is your 10th year of providing unsurpassed education to Japan's information technology users. COMMON will be celebrating our 40th Anniversary next year. COMMON hosts COMMON International in the United States during our fall conference each year to bring together the leaders of iSUC as well as the heads of COMMON throughout the world. It is at these meetings that your leaders join with the heads of COMMON throughout the world to discuss ideas for growth and management.

COMMON North America is the United States largest group of IBM and IBM-compatible information technology users. The organization comprises 6,500 individual and corporate members representing more than 27,000 IT professionals involved with the application of IBM AS/400, Netfinity and related platforms within a wide variety of business environments. COMMON also has 16 chapters in Europe operating as COMMON Europe, and 5 chapters in South America and Mexico operating as COMMON Latin America.

iSUC, along with COMMON, plays a leading role in helping IT professionals get the most from their technology investments. It accomplishes that by providing unparalleled access to the latest knowledge, education and expertise - to increase the value of information technology to businesses.

COMMON wishes you success in this special year, and looks forward to the celebration of iSUC's 40th Anniversary in a few more years! Have a great conference, and remember to look toward the future.

David Hildebrandt
President
COMMON North America

iSUCとは何か

情報システム担当者の研鑽と情報交換の場として

iSUC(Intermediate System Users Conference)は、日進月歩のコンピューター利用技術に対して、中小型システム・ユーザー相互の研鑽と情報交換を図ることを目的にスタートしました。

ボランティア精神を基礎とした“ユーザーの、ユーザーによる、ユーザーのための”運営形態は、すでに30年の歴史をもっていた米国のIBM中小型システム・ユーザー団体<COMMON>をモデルとし、ユーザー・ニーズとメーカー・シーズの出会いの場として互恵的なパートナーシップの確立、増進を図りました。それを通じて、IBMは製品の改善とユーザー・ニーズに適合する方法を学び、同時にユーザーも、IBMのコンピューターの有効利用について学んでくることができました。

情報システムの最前線で活躍する担当者の研鑽と情報交換の場として、iSUCに対する認知度と評価は回を追うごとに高まり、春のIBMユーザー・シンポジウム、秋のiSUCとして全国IBMユーザー協議会(現在、全国IBMユーザー研究会連合会)の二大プログラムとして恒例化しています。

時代のトレンドをとらえた多種多様なセッションで参加者は明日の情報システムを考え、知識を深め、IES(情報交換会)で仲間を見つけて語り合い、iSUCが終了した後も各地で多くの交流が続けられています。

[iSUC 開催の経緯]

日本アイ・ビー・エムのユーザー団体活動は、IBMが大型機中心の市場形成をしてきた歴史的経緯から、ユーザー会も大型機ユーザーを中心に進められてきました。その活動は、情報交換、一般教養、親睦を中心としたものでしたが、「管理者のためのセミナー」や「情報システム部門トップ・セミナー」など宿泊を伴う行事が生まれると、夜を徹した活発な意見交換や問題解決が討議され、ユーザー会活動も内部から大きな盛り上がりを見せるようになりました。

このようななか、1980年代初めころから中小型システム・ユーザー独自の問題に関する研鑽、自己啓発の必要が意識されるようになりました。それは数年間、潜在化したままでしたが、1987年(昭和62)関東IBMユーザー研究会(関東研)有志の提案でゼネラル・システムを中心とした研究活動を行なう分科会が認められ、設置されました。「ゼネラル・システム研究部会」は、その後、順調かつ活発な活動を展開し、新規会員も増えて軌道に乗りました。

しかしながら、研究会活動だけでは参加できる会員に限りがあり、また、要員の少ない中小型システム・ユーザーが定例的・継続的に会に参加することが難しいことから、短期間で集中的に多くの勉強ができる場を望む声は自然発生的に出てきました。

関東研では、これらの要望を反映するプログラムを検討するうえで、米国の中小型システムのユーザー団体である<COMMON>が参考になると考え、1988年(昭和63)4月に予備調査グループを派遣しました。この報告をもとに、同年9月に関東研がCOMMONの正式団体会員に加入し、「COMMON調査・研修団」を派遣しました。その結果、日本の中小型システム・ユーザーが求めているユーザー会活動の一つの形態が、米国ではすでに30年間も実践されていることを知って驚くとともに、今後の参考になることを確信しました。

このような背景から、中小型システム・ユーザーが集中的に研鑽し、自己啓発するための活動をCOMMONのスタイルを参考に実践してみようという機運が高まり、当時の日本アイ・ビー・エム(株)ゼネラル・ビジネス事業部の全面的な支援・協力を受けながら、関東研のゼネラル・システム研究部会が中心となって企画して開催したのが、1990年(平成2)10月17日から3日間にわたる第1回iSUCでした。

第1回大会

SOLUTION -人と技術と情報の世界

開催場所	ヤマハリゾートつま恋(掛川)	ボランティア数	68名
開催日	1990年10月17日(水)~19日(金)	セッション数	89
参加者数	510名	リクワイアメント数	70



待ち望まれた大会がついに開催されました。“ユーザーの、ユーザーによる、ユーザーのための”iSUCが、ここに21世紀に向けた第一歩をしるしたのです。



第1回 iSUC実行委員長 勝亦研二(株)勝亦電機製作所社長)

第1回で特筆すべきは、iSUC史上最強の実行委員会が編成された点でしょう。委員長は乗っかっていただけ。準備委員会は十数回を超えましたが、常に自由闊達、議論百出、大変楽しい思い出です。準備期間が短く、COMMON準拠を名分に独断専行したこともありましたが、皆さまご快諾のうえ、大会を成功裏に導いてくださいました。信義則やリクワイアメントは日本の心情では馴染みにくい面があったのですが、その後の大会で見事に改善されたのはご存じの通りです。

1990

この年(1990)平成2年... 統一ドイツ誕生 秋山豊寛さん日本人初の宇宙飛行
日本IBMがOS「IBM-DOSverJ4.0/V(DOS-V)」発売 「ファジー」商品が初登場

個人尊重・技能研鑽を理念とした第1回

最初の大会ということで、すべて手さぐりの状態でスタートしました。

米国のCOMMONをお手本にして、技術セッションのほかにリクワイアメント・セッション、何でもQ&A、呼びかけセッションなど、日本における他のセミナー等にはないiSUC特有のセッションを試行しました。

技術セッションとしては、AS/400のパフォーマンス・チューニング、バックアップ/リカバリー、機密保護といった基本的な内容から、イメージ処理、音声処理、人工知能(AI)などの先進的な内容まで、幅広いテーマを網羅していました。

また、当時はSAA(System Application Architecture)やAD/Cycle、戦略的情報システム(SIS)などもセッションのテーマとなっていました。さらに、プレゼンテーション・テクニクなど、コンピューター以外のセッションも人気となりました。

リクワイアメントは、初めて募集したにもかかわらず、70件と予想以上の数が集まりました。このころのリクワイアメントは、AS/400の言語やユーティリティに対するものが多く、特にRPG言語に関する製品改善要求は、現在のILE RPGの実現につながっています。

なにしろまだiSUCそのものの認知度が低く、この大会がユーザー主催でボランティアで運営されていることも、なかなか理解してもらえませんでした。iSUCの日本名が「中小型システムユーザーコンファレンス」ということで、AS/400中心の内容だったにもかかわらず、当時、S/390の中型機種である9370のユーザーも数名出席されるというハプニングもありました。

GUESTS ゲスト(敬称略)

COMMON会長 ロジャー・ベック
IBM Corp.副社長 ラバント
IBM Corp. ジョン・リード
関東研会長 平林 久 ほか



交流の輪
同業種ごとのテーブルを囲んで、名札のシールを目印に共通の話題に花が咲きました。iESの後も話題がつかず、iES会場から飲み物・食べ物を持ち出して、それぞれのロッジで夜遅くまで話を続けるグループも見受けられました。



第1回iSUC実行委員

実行委員長 (株)勝亦電機製作所 勝亦研二
事務局長 (株)サンエス 宗万 裕
実行委員 高松商事(株) 高松 洵
(株)ティージー情報ネットワーク 木谷真理
(株)フジエテキスタイル 大崎 皓
プロセス資材(株) 大久保泰助
(株)ホテルオークラ 石原 直
(株)山種システムサイエンス 杉本 久
ヨシナガ(株) 吉永雅明

第2回大会

SOLUTION -人と技術と情報の世界

開催場所	ヤマハリゾートつま恋(掛川)	ボランティア数	70名
開催日	1991年10月16日(水)~18日(金)	セッション数	68
参加者数	549名	リクワイアメント数	176



若いパワーと感動あふれる3日間でした。全U協(現・全国研)の二大行事として、「春のシンポジウム」「秋のiSUC」が恒例化していきます。



第2回 iSUC実行委員長 石原 直
(㈱ホテルオークラ システム開発部長 / 現: 同社取締役社長室長)

第2回は1回目と同じヤマハリゾートでの開催。あんなに素敵な環境で、遊びには不自由しないはずなのに、誰も外に出て行かないなんて、ホテルの人は不思議な集まりだと思ったに違いありません。これは成功の証し。

2番打者には巧者が多い、バントありヒットエンドランあり。走者を得点圏に進めることが使命。クリーンヒットの1塁走者はみごと2塁に進みました。2番バッターのデッドボールでね。

1991

この年(1991)平成3年... 湾岸戦争勃発 普賢岳の火砕流 若貴ブーム パブル経済崩壊
携帯電話流行始まる ジュリアナ東京にお立ち台ギャル出現

IBMも巻き込んだ第2回

前年の大会が、ユーザー主催でボランティアで運営されていることが知られるようになり、ユーザー、ビジネス・パートナー、IBM社員の協力がより多く得られるようになりました。

セッションも「AS/400の内部構造」など技術的なレベルが深まり、また、ユーザー事例を中心にユーザーが講師をつとめるセッションも多くなりました。

内容としては、AS/400以外に「UNIXの動向とIBMのAIX戦略」などUNIXに関するもの、さらに「通信情報サービスの動向とISDN」など、ネットワークに関するものが増えてきました。

この頃はマルチメディア関連製品が出始めたところで、セッションでは「先進アプリケーション(マルチメディアの世界)」といったテーマがあり、デモ・コーナーでは日本語OCR、IF-MAP、音声合成などマルチメディア関連の製品が展示されました。また、世界初のカラーノートも展示されました。

この年のリクワイアメント数は176件と、前年の2.5倍以上寄せられ、AS/400に対する期待と関心の高さを示しています。要求の内容としては、すでにPCとの親和性を求めるものがあり、現在のPCサポートの機能強化やオペレーション・ナビゲーターにつながっています。

GUESTS ゲスト(敬称略)

日本アイ・ピー・エム(株)副社長 本林理郎
日本アイ・ピー・エム(株)副社長 北城恪太郎
全U協委員長 平林 久 ほか

交流の輪
名刺集めがコンテスト化されて、ユーザー同志の交流を深める手段として見込み以上の効果を発揮しました。1回目同様、iESの後も話が続き、手慣れた様子でiES会場から効率よく飲み物・食べ物を持ち出す人もいました。

第2回iSUC 実行委員

実行委員長 ㈱ホテルオークラ 石原 直
事務局長 プロセス資材(株) 大久保泰助
実行委員 ㈱アルベリ 小井戸四郎
ゼット(株) 瀬山 正
大日本紙業(株) 安井正汎
㈱ティージー情報ネットワーク 木谷真理
㈱テレビ東京コンピューター・センター 上野政男
㈱ヴィクトリア情報システムズ 遠藤浩子
㈱山種システムサイエンス 杉本 久
ヨシナガ(株) 吉永雅明

第3回大会

NETWORKING -人と技術と情報の世界

開催場所	グランドホテル浜松（浜松）	ボランティア数	90名
開催日	1992年10月7日(水)～9日(金)	セッション数	82
参加者数	684名	リクワイアメント数	220



整然とスムーズに。すべてがとどこおりなく運営され、確かな成果を残しました。
3回目にして早くも全国的な行事として認知され、定着しました。



第3回 iSUC実行委員長 吉永雅明

(ヨシナガ㈱常務取締役情報システム室室長 / 現: 同社代表取締役副社長)

第3回iSUCは700名弱の参加者で開催されましたが、セッション内容のうちLAN関連はわずか2セッションで、しかもLAN概論と物理的接続の方法論しかありませんでした。まだS/38のユーザーも多く、ディスク障害防衛についてユーザー同志で情報交換したことを覚えています。次回以降の開催会場探しも大切なお役目で、大都市の多くの施設を下見したことも楽しい思い出です。ユーザーのユーザーによるユーザーのためのiSUC万歳。

1992

この年(1992)平成4年・・・ パルセロナ・オリンピック水泳女子平泳ぎで岩崎恭子さんが金メダル
きんさんぎんさん満100歳 毛利衛さんエンデバーで宇宙へ 女子高生にポケベル大流行

全国ベースに広まった第3回

2回の大会を経験し、準備・運営も比較的スムーズに行なえるようになりました。

セッションの内容としては、すでに現在の技術につながるものがテーマとして取り上げられ、例えば「オブジェクト指向が知りたい」「TCP/IPって何?」「AS/400クライアント/サーバーの現状と将来」「日本IBMにおけるアウトソーシング」などがありました。

基調講演を行なったのは、当時のIBM副社長兼ABS事業本部長のジョン・M・トンプソン氏でした。内容としては、AS/400が将来にわたり、1.ソリューションを提供しつづけ、2.アプリケーション開発の容易性を追求し、3.運用コストを減少させる、というものでした。

クローージング・セッションでは、当時IBM東京基礎研究所の鈴木則久氏が「IBM基礎研究所の概要」というタイトルで、走査型顕微鏡(1986年ノーベル物理学賞)などIBMの研究成果について話しました。

リクワイアメントは前年をさらに上回り、約220件が寄せられました。AS/400だけでなくRS/6000やPCに関するリクワイアメントも増えました。

デモ・コーナーが充実し始め、IBM以外にもビジネス・パートナー各社から、CASEツール(Synon、AS/SET、LANSA)など、多くの出展がありました。

GUESTS ゲスト(敬称略)

IBM Corp.副社長 ジョン・M・トンプソン
日本アイ・ビー・エム(株)社長 椎名武雄
日本アイ・ビー・エム(株)副社長 北城恪太郎
全U協委員長 橋本光夫 ほか



交流の輪

テーブルは地区研毎の配置でしたが、全国のユーザーとの交流も活発に行なわれました。日本IBMからも椎名社長、北城副社長、佐伯専務(共に当時)が参加され、ユーザーの意見に耳を傾けていました。



第3回iSUC 実行委員

実行委員長 ヨシナガ(株) 吉永雅明
事務局長 (株)テレビ東京 上野政男
実行委員 (株)紀文システム開発 高橋昭一
サンスター技研(株) 圓左克廣
ジョンソン(株) 長谷川満
大日本紙業(株) 安井正汎
(株)ソルゲン 持田 肇
(株)ティージー情報ネットワーク 木谷真理
ナショナル・ネーデルランデン生命保険会社N.V. 久野雅祥
八重洲無線(株) 井手孝弘

第4回大会

OPENNESS - 広がる情報の世界

開催場所	ホテルオークラ神戸（神戸）	ボランティア数	92名
開催日	1993年10月6日(水)～8日(金)	セッション数	84
参加者数	631名	リクワイアメント数	128



初めての関西地区・神戸での開催。オプションとして夜の神戸港クルージングも行なわれ、船上で情報交換、歓談の輪が広がりました。



第4回 iSUC 実行委員長 久野雅祥

(ナショナル・ネーデルランデン生命保険会社N.V. / 現: アイエヌジー生命保険(株)常務取締役)

第4回iSUCは、何と言っても「ホテルオークラ神戸」という超一流ホテルでの開催が目玉でした。食事のおいしさや各種サービスの良さを皆さんに満喫していただけたと思います。もちろんそれに代わって、iSUCの柱であるセッションやリクワイアメントといった中身についても、アメリカのCOMMONを参考に、質の高いものを用意できたと自負していますし、2日目の夜は、希望者に神戸港のクルーズも楽しんでいただきました。

1993

この年(1993)平成5年・・・ 皇太子さま雅子さまご成婚 サッカー「Jリーグ」スタート
マイクロソフト「Windows 3.1」発売 恐竜ブーム

新機軸を打ち出した第4回

初めての関西地区の大会ということで、関西からも多くの参加者がありました。

オープン化の影響を受け、AS/400以外にRS/6000、Windows NTなどのセッションが増え、デモ・コーナーもUNIXベースの製品やネットワーク関連製品が多くなりました。また、米国IBMから、AS/400の生みの親であるフランク・G・ソルティス氏を招聘して「AS/400 NEXT 5 YEARS」という内容で講演をしてもらいました。

デモは、ホテル内のオープン・スペースで行なわれ、参加者が気軽に見られるようになっていました。AS/400関連としては意思決定支援ツールなどが出展され、さらにこのころから普及したLAN関連製品なども出展されました。

基調講演は、前年にひきつづきジョン・M・トンプソン氏。「AS/400ルネッサンス」というタイトルで、AS/400の今後の投資分野として1.RISCプロセッサ、2.オープンネス、3.オブジェクト指向、4.分散クライアント/サーバー、5.統合システム、の五つの分野があげられました。

クルージング・セッションは、乗用車「スカイライン」の開発で有名な(株)オーテック・ジャパンの櫻井眞一郎氏にお願いしました。

GUESTS ゲスト(敬称略)

IBM Corp. 上席副社長 ジョン・M・トンプソン
IBM Corp. フランク・G・ソルティス
IBM Corp. ピーター・ストライト
日本アイ・ビー・エム(株)社長 北城恪太郎
日本アイ・ビー・エム情報システム(株)社長 佐伯達之
日本アイ・ビー・エム・サービス(株)社長 後藤三郎
全国研副会長 大菅弘明 ほか

交流の輪

1日目はホテルでiES。その後は参加者同志が部屋に集まって深夜までシステム談義が繰り広げられました。2日目は「船上iES」が開催されました。船酔いする間もないくらいアルコールが消費されました。

第4回 iSUC 実行委員

実行委員長 ナショナル・ネーデルランデン生命保険会社N.V. 久野雅祥

事務局長 (株)紀文フレッシュシステム 高橋昭一

実行委員 朝日電装(株) 加茂貴淑
小泉製麻(株) 稲山雅史
興国ハウジング(株) 関 孝也
ジョンソン(株) 長谷川満
(株)ソルゲン 持田 肇
帝神畜産(株) 岸本俊一
フジタ製薬(株) 藤田昌弘
(株)明治情報システムセンター 片瀬洋夫
八重洲無線(株) 井手孝弘

第5回大会

HARMONY -人とコンピューターの新しい調和

開催場所	ロイトン札幌（札幌）	ボランティア数	109名
開催日	1994年10月26日(水)～28日(金)	セッション数	96
参加者数	816名	リクワイアメント数	165



iSUCは、初めて海を渡って札幌へ。アトラクションも多く、リラックスしたなかにも真剣な研鑽、情報交換が繰り広げられました。



第5回 iSUC実行委員長 藤田昌弘(フジタ製薬(株)取締役副社長)

第5回iSUCは初めて本州から離れて、晩秋を思わせる北の地、北海道で平成6年10月26日より3日間の日程で行なわれました。

前年を大幅に上回る参加人員で開催5回目にしてIBMユーザー会においてシンポジウムと並ぶ2大イベントとして認知された感があります。また、この年iSUCは、設立に際して手本としてきたUS COMMONのAffiliated User Group(AUG)としての契約を締結し、COMMONを中心とした全世界のIBMユーザーに対してiSUCの立場を明確にし、情報の共有化をすることが可能になりました。

1994

この年(1994)平成6年・・・ リレハンメル冬季オリンピック 向井千秋さんコロニアで宇宙へ
大江健三郎氏にノーベル文学賞 水不足で給水制限

転換期を迎えた第5回

遠い札幌の地ということで、参加人数が少ないのではないかと危惧がありましたが、実際に蓋をあけると、これまでの最高参加人数ということで、委員全員が胸をなでおろしました。

この年はオブジェクト指向関連のセッションが人気となり、主なタイトルとして「オブジェクト技術の基礎知識」「オブジェクト指向技術ストラテジーと将来動向」「はじめてのC++」「オブジェクト指向開発ツール VisualAge」などがありました。

また、BPR(ビジネス・プロセス・リエンジニアリング)という言葉がはやり、特に管理者向けに「リエンジニアリングと会計情報」「パッケージS/Wを使用しBPRに着手。その結果は?」「企業革新と情報化戦略」などのタイトルのセッションがありました。

デモは、ビジュアルRPGなどの新しい開発環境や、LANサーバー等、クライアント/サーバー・コンピューティングをベースとする製品が紹介されました。

基調講演は、当時の米国IBM副社長デービッド・トーマス氏で、「ビジネスの新たな地平を拓く、AS/400の革新と挑戦」というタイトルで行なわれました。内容はこの年の発表に関するもので、発表の三つの要点、1. 将来のアップグレードが容易、2. 64ビットPowerPCの搭載(AS/400アドバンスト36, 来年すべてのAS/400に)、3. リコンパイルなしでCISCからRISCへ移行を可能にする、というものでした。

GUESTS ゲスト(敬称略)

IBM Corp.副社長 デービッド・トーマス
IBMロチェスター研究所PSP ジョン・ピーターソン
IBMロチェスター研究所 マンディ・パパマルコス
日本アイ・ピー・エム(株)社長 北城格太郎
日本アイ・ピー・エム情報システム(株)社長 佐伯達之
日本アイ・ピー・エム・サービス(株)社長 後藤三郎
全国研会長 大菅弘明 ほか

交流の輪

1日目はホテルでiES。すすきのでラーメンを食べる参加者の姿が数多く目撃されました。

2日目は、「アサヒビール園」でジンギスカンを楽しみました。名物司会のおしゃべりが楽しい夕食会でした。

この大会からキャンディット(想い出のアルバム)が始まりました。

第5回iSUC 実行委員

実行委員長 フジタ製薬(株) 藤田昌弘
事務局長 ジョンソン(株) 長谷川満
実行委員 朝日電装(株) 加茂貴淑
いすゞデータプロセッシング(株) 緒方崇文
榎本シャリング鋼業(株) 榎本有賢
共和コンクリート工業(株) 鍋島利彦

実行委員 キリンエンジニアリング(株) 中島邦彦
小泉製麻(株) 稲山雅史
興国ハウジング(株) 関 孝也
(株)竹中土木 高階純司
ツルゲン(株) 持田 肇
(株)明治情報システムセンター 片瀬洋夫

第6回大会

NATURAL - より自然なこれからのコンピューター利用

開催場所 アクトシティ浜松（浜松）	ボランティア数 80名
開催日 1995年10月4日(水)～6日(金)	セッション数 93
参加者数 849名	リクワイアメント数 179



音楽の街・浜松での大会は、規模、内容ともますます充実。パイプオルガンが鳴り響くオープニング、スキットで紹介される信義則などの演出が好評でした。



第6回 iSUC実行委員長 中島邦彦

(キリンエンジニアリング㈱取締役包装・物流システム部長 / 現: アルコ㈱代表取締役社長)

第6回大会の開催地は静岡県の浜松市。そこは楽器の街、音楽の街。そこで、恒例の初日の信義則のスキットはオペレッタ風にやることに。団員みんなの懸命の特訓の成果あって、拍手しばし鳴り止まずとまではいかなかったけれども、すばらしく印象的でした。また、最終日のクロージングはヤマハ㈱のご厚意でコンピューターとセンサーが人の身振り・手振りと連動して、リズム感や情緒あふれる曲を自動的に作曲し奏でるもの。感動的なほど好評でした。iSUCってほんとに楽しい所ですね。

1995

この年(1995)平成7年・・・ 阪神淡路大震災 地下鉄サリン事件
野茂英雄選手大リーグで新人王 マイクロソフト「Windows 95日本語版」発売

参加者の属性が変化した第6回

初めて第三セクターの施設を使いました。これまでの会場がすべてホテルだったこともあり、サービス・レベルの違いから運営で苦労する場面もありました。

セッションとしては、インターネット関連、グループウェア関連のものが新たに加わりました。主なタイトルは、「インターネットとは」「インターネットの有効活用と今後の展望」や「グループウェア社内導入奮戦記」「ワークフローマネジャーとLotus Notesによるシステム構築」などで、どちらかというともまだ入門的な内容でした。

また、阪神淡路大震災直後ということもあり、「震災とコンピューター パネル・ディスカッション」「システムの信頼性と対策—日本IBMの危機管理」のセッションも関心呼びました。

さらに教養セッションが増え、「ワインと食事を楽しむ5つの方法」など、コンピューターと直接関係ないセッションも人気となりました。

基調講演は、当時米国IBM副社長のボブ・ダイズ氏で、AS/400アドバンスド・シリーズの特長と今後の方向性について、64ビットRISCチップ、WWWサーバー機能などを中心に説明がなされました。

また、クロージング・セッションとしてヤマハ㈱の日吉昭夫氏より「電子楽器研究の歴史と夢」というタイトルで、電子楽器の実際のデモを交えながら興味深い講演をしていただきました。

GUESTS ゲスト(敬称略)

IBM Corp.副社長 ボブ・ダイズ
IBM Corp.AP リンダ・ライアン
日本アイ・ビー・エム㈱副会長 本林理郎
全国研会長 山下純一 ほか



交流の輪

1日目はホテルでiES。2日目は、「屋台村」「うなぎ」「夜景」「カラオケ」「鮮魚」の5コースに分かれて夕食会が行なわれました。盛り上がり方はコースごとにさまざまでした。



第6回 iSUC 実行委員

実行委員長 キリンエンジニアリング㈱ 中島邦彦
事務局長 ㈱竹中土木 高階純司
実行委員 アスティ㈱ 大淵正博
アマノ㈱ 志賀孝敬
㈱アロマカラー 西條一男
いすゞデータプロセッシング㈱ 緒方崇文

実行委員 榎本シャリング鋼業㈱ 榎本有賢
㈱スタン 近藤紳一郎
㈱チャク 小池啓嗣
㈱文化放送 森 春雄
㈱ホテルオークラ 池田正己
ユニチカ情報システム㈱ 森川昭宏

第7回大会

チャレンジ&アクション - 変化に対応して

開催場所	シーホーク ホテル&リゾート(福岡)	ボランティア数	120名
開催日	1996年10月23日(水)～25日(金)	セッション数	97
参加者数	1150名	リクワイアメント数	109



日本の元気都市・福岡のシーホークで初の1000人を超す規模での開催。
会場施設をフルに活用したふれあい広場などの企画で、大いに盛り上がりました。



第7回 iSUC実行委員長 宗万 裕(株)シイエスシイ代表取締役社長)

早割特典にドーム球場を格安で借りて、バッティング、チアガール、バンドを入れてお祭り騒ぎをしました。

ホテルの下見の時、2泊3日6食分の食事を3時間かけて試食をして、夕食が食べられる状態ではありませんでした。

大会が終わった後の反省会、300円払えば鮎食べ放題のキャッチフレーズで対馬まで行きましたが、薄く切った鮎3枚しか出ませんでした。

1996

この年(1996)平成8年・・・ アトランタ・オリンピック O-157各地で大流行
ペルー日本大使公邸人質事件 ブリクラ、ルーズソックスが女子高生を中心にブーム

盛り上がりとこだわりの第7回

セッションでフリーランスなどのPCのプレゼンテーション・ツールを使う講師が増えました。まだ、プロジェクター等の機器が充実しておらず、やり繰りが大変でした。

新しい試みとして実習セッションを開始し、好評を得ました。実習内容は、「実習 ホームページの作り方」「実習 ロータスノート実体験」などでした。

技術セッションとしては、インターネット、イントラネットなどのセッションが人気となり、「ビジネスに使えるインターネット」「エレクトロニックコマース インターネットでお買物」「インターネット時代のセキュリティを考える」など、内容的にも深く、実用的なものが増えました。また、データ・マイニングやERP(統合パッケージ)に関するものも新たに加わりました。

リクワイアメントでは、インターネット時代を予兆して、AS/400でのファイアー・ウォールのサポートに対する要求がありました。また、新郵便番号のサポート、FSIOPでのWindows NTのサポートなどもあり、現在のAS/400の機能向上につながったものもありました。

基調講演は、当時(株)ダイエー代表取締役会長兼社長の中内功氏で、参加者と質疑応答を行なうなど、ユニークな内容でした。

GUESTS ゲスト(敬称略)

日本アイ・ビー・エム(株)副会長 本林理郎
日本アイ・ビー・エム(株)社長 北城格太郎
日本アイ・ビー・エム(株)副社長 佐伯達之
全国研会長 田邊忠夫 ほか

交流の輪

1日目はホテルでiES。この大会からiES後のディープな情報交換会「ふれあい広場」が始まりました。ホテルのベランダで秋風を感じながらのおしゃべりは大変心地よいものでした。ピンゴ大会も大いに盛り上がりました。2日目は、ドームで福岡大学チアリーダーによるデモンストレーションに始まり、フリーバッティング、パターゴルフを楽しみながらのスポーツ的な夕食会でした。そういえば、中州の屋台でラーメンをすすするiSUC参加者の姿がやけに目立っていました。

第7回iSUC 実行委員

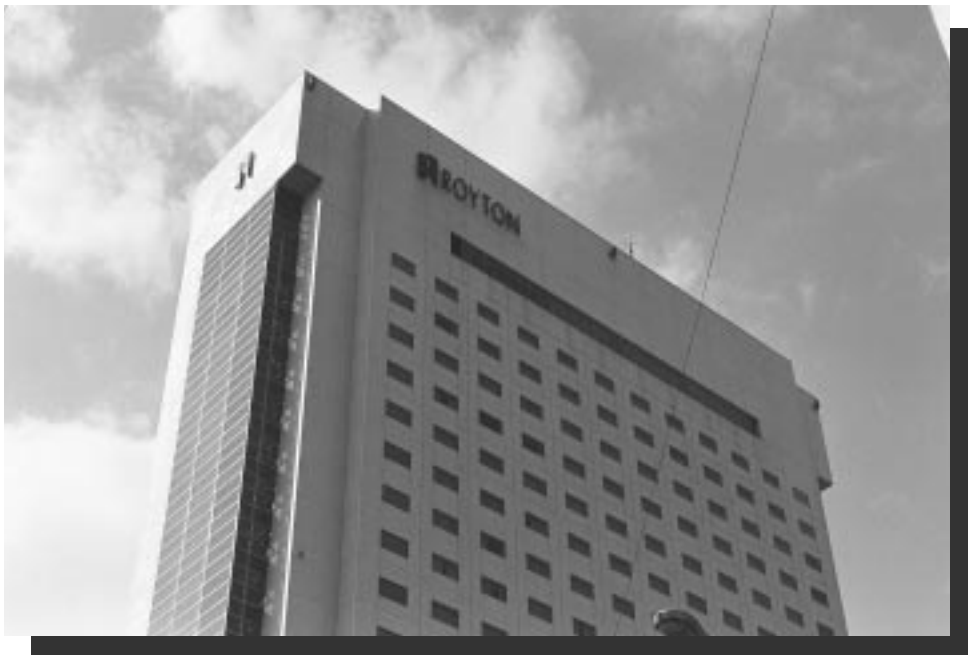
実行委員長 (株)シイエスシイ 宗万 裕
事務局長 (株)ホテルオークラ 池田正己
実行委員 アスティ(株) 大淵正博
アマノ(株) 志賀孝敬
(株)アロマカラー 西條一男
(有)オオワダシステム開発 大和田和巳
三宝商事(株) 内山皇美
(株)資生堂 芝本 耿
(株)スタン 近藤紳一郎

実行委員 セントラルグループ 田中 尚
(株)チヤク 小池啓嗣
(株)鉄道会館 久保義弘
ナショナル・ネーデルランデン生命保険会社N.V. 水野浩記
(株)ニッポンダイナミックシステムズ 平山正孝
(株)文化放送 森 春雄
(株)ホテル小田急 竹久保忠幸
(株)宮豪 丸谷哲司
ユニチカ情報システム(株) 森川昭宏

第8回大会

知的アドベンチャー - 君の知らない世界が^{ひろ}開拓がる

開催場所	ロイトン札幌（札幌）	ボランティア数	118名
開催日	1997年10月15日(水) - 17日(金)	セッション数	136
参加者数	1333名	リクワイアメント数	72



秋の気配ただよう北の都・札幌での開催。参加者は前回はさらに上回る1333名で、質・量とも、さらに充実した内容へと発展しました。



第8回 iSUC 実行委員長 小池啓嗣 (株)チャック代表取締役社長)

赤字にならない程度の人数は最低でもきてほしいと謙虚な気持ち(?)で第8回 iSUC がスタート。2日目のビール園での夕食について、実際に食べる参加者が少ないとコストが高くなってしまふから参加不参加のアンケートを事前にとったりしました。参加者1000人未満の場合ジンギスカンの肉は冷凍のもので我慢してもらい、1100人までは生と冷凍半々、それ以上だったら生の肉。結果はほぼ全員参加で、おにぎりまで付けられました。めでたしめでたし。

1997

この年(1997)平成9年... ダイアナ元妃事故死 香港返還 日本海沿岸に重油流出
神戸児童連続殺傷事件 消費税5%スタート たまごっちブーム 「失楽園」が話題

原点回帰をした第8回

インターネット、グループウェア、Javaといった新しい技術紹介のセッションが多くありました。インターネット関連では、「ファイアーウォールを実現するAS/400」、Java関連では、「初めてのJava」、「AS/400e開発環境の将来—Javaとサンフランシスコ・プロジェクト」、「JavaとAS/400」がありました。また、モバイルという言葉も定着し始め、「モバイルコンピューティング事例」中高年のためのモバイル活用体験記「営業活動におけるモバイル活用法」のセッションで具体的な事例が紹介されました。コンピューター2000年問題もテーマとして取り上げられ、「AS/400 2000年対応—取り組み事例」、「AS/400 2000年対応—そろそろ本腰いれないと」等のセッションがありました。

デモ・コーナーは、AS/400でのインターネット関連製品、データ・マイニング、その他のビジネス・インテリジェンス関連製品などが展示されました。

基調講演は、NHKの人気番組「電子立国 日本の自叙伝」で有名なエグゼクティブ・ディレクター 相田洋氏で、今やマイクロプロセッサやソフトウェアが、自動車や家電など身の回りのあらゆるところで使われているということ、ビデオ等で具体的な事例をあげながら説明されました。

GUESTS ゲスト(敬称略)

IBM Corp. 副社長 パーツ・ボーン
日本アイ・ビー・エム(株) 社長 北城格太郎
日本アイ・ビー・エム(株) 副社長 佐伯達之
日本アイ・ビー・エム(株) 専務 後藤三郎
全国研会長 田邊忠夫 ほか

交流の輪

1日目はホテル内でiES。カニが大好評でした。iES後のふれあい広場も大いに盛り上がりました。2日目は、名物のジンギスカンを「サッポロビール園」で楽しみました。すすきのはiSUC色に染まりました。

第8回 iSUC 実行委員

実行委員長 (株)チャック 小池啓嗣
事務局長 セントラルグループ 田中 尚
実行委員 (有)オオワダシステム開発 大和田和巳
カンロ(株) 藤谷 巖
コサリーベルマン(株) 鈴木悦夫
(株)資生堂 芝本 耿
たくぎんコンピューター(株) 金丸重利

実行委員 (株)鉄道会館 久保義弘
日信電子サービス(株) 皆上秀樹
(株)ニッポンダイナミックシステムズ 平山正孝
福栄鋼材(株) 小川允巳
(株)ホテル小田急 竹久保忠幸
(株)宮豪 丸谷哲司

第9回大会

eXCITING - わくわくする未来が君を待っている

開催場所 名古屋国際会議場 (名古屋)	ボランティア数 149名
開催日 1998年11月18日(水)~20日(金)	セッション数 133
参加者数 1381名	リクワイアメント数 72



名古屋のコンベンション施設での開催。参加者はさらに増加し、女性の参加率11.8%も過去最高で、名実ともに国内で有数のコンファレンスに成長しました。



第9回 iSUC 実行委員長 田中 尚 (セントラルグループ代表取締役社長)

私自身、第1回より参加者としてかかわってきた者として、参加した方々にいかにも満足していただけるかを、一番の目標と定めていました。そのために、参加者としてこうあって欲しいというようなことは、すべて第9回 iSUC で実現させていただきました。地元中部をはじめ各地区研の皆さまには多数のご支援をいただき、また超我が儘な私についてきてくれたスタッフの皆さんには感謝あるのみです。これからも、よき伝統は引き継ぎながらも、常に新しい試みをしていって欲しいと思います。

1998

この年(1998)平成10年... 長野冬季オリンピック開催 和歌山毒入りカレー事件
日本サッカーW杯出場 マグワイア70本塁打 映画「タイタニック」がヒット

参加者に対する配慮と工夫の第9回

e-business関連のセッションを中心に、グループウェア、インターネット、ERP、SCM(Supply Chain Management)等、これからの新しい技術の利用方法といった内容で、前年よりもより実践的なセッションが増えました。e-business関連では、「成長企業のためのe-business」「AS/400最新情報—e-business時代のAS/400」「インターネット・セキュリティの最新動向」などが、ERPでは「ERPソリューションの動向とIBMの取り組み」やユーザー導入事例が、またSCMとしては「中堅企業におけるサプライチェーン・マネジメントを考える」がありました。その他、CTI(Computer Telephony Integration)やSOHO(Small Office Home Office)といったはりのテーマのセッションもありました。

今回のリクワイアメント・セッションは、IBMロチェスター研究所からフランク・G・ソルティス氏とジム・ヘリング氏を招き、セッションの出席者から直接リクワイアメントを開発者に聞いてもらうという形で進められました。ユーザーと開発者の直接対話という初めての試みでしたが、ユーザーからも積極的かつ具体的な要求が投げられ、熱のこもったセッションとなりました。

基調講演は、トヨタ自動車(株)副社長の山本幸助氏による「トヨタの環境戦略」と、元F1レーサー中嶋悟氏による「モータースポーツと私」で、はからずも両方ともクルマに関するテーマとなりました。

デモ・コーナーは、今回「iSUCモール」と名前を変え、質量ともこれまでの大会で最も充実した内容となりました。特にミニシアターを設け、出展者がセッションの合間に製品の特長やメリットを参加者に十分説明できるようになりました。同時に、IBM先進コーナーも併設し、話題のウェアラブル・パソコンや高解像度TFT LCDモニター等が参考出品されました。

GUESTS ゲスト (敬称略)

IBM Corp. フランク・G・ソルティス
IBM Corp. ジム・ヘリング
日本アイ・ピー・エム(株)副会長 本林理郎
日本アイ・ピー・エム(株)社長 北城格太郎
全国研会長 吉本先知 ほか

交流の輪
1日目は国際会議場でiES。名古屋名物の手羽先やきしめんに舌鼓を打ちました。2日目は夕食会兼ふれあい広場。見込み以上の参加者があり、途中からの会場拡大作業にも出席者が積極的に協力しあい、まさに手作りのふれあい広場となりました。有名人ピンゴ大会で大いに盛り上がりました。

第9回 iSUC 実行委員

実行委員長 セントラルグループ 田中 尚	実行委員 (株)ティージー情報ネットワーク 須藤 勝
事務局長 (株)ホテル小田急 竹久保忠幸	(株)テレビ東京システム 神田智夫
実行委員 (有)オオワダシステム開発 大和田和巳	日信電子サービス(株) 皆上秀樹
オフィス本田プランニング 本田正法	(株)ニッポンダイナミックシステムズ 平山正孝
花王(株) 安藤俊幸	日本フィリップス(株) 西村佳洋
加賀ソルネット(株) 品田和義	福栄鋼材(株) 小川允巳
カンロ(株) 藤谷 巖	(株)フジタ 久保山祐児
コサリーベルマン(株) 鈴木悦夫	(株)宮豪 丸谷哲司
(株)コスモスライフ 大西雄三	陸物産(株) 加藤智明
三菱石油(株) 石田 薫	

第10回大会

21世紀への序奏 - Now, Sailing!

開催場所	シーホーク ホテル&リゾート(福岡)	ボランティア数	300名予定
開催日	1999年11月10日(水)~12日(金)	セッション数	155予定
参加者数	1500名予定		



記念すべき第10回大会は、再び福岡の地で。ITはどんな新世紀を創り出しているのか。iSUCに参加して、ご自身の目で確かめてください。



第10回 iSUC実行委員長 杉本 久 (㈱山種システムサイエンス常務取締役)

21世紀の一般社会を想像してみますと、今までコンピューターというものに接してこなかった、ごく普通の人々、高齢者の人々、ハンディキャップを負った人々が参加できるネットワーク社会となるでしょう。ViaVoiceにみられるキーボードレス、WorkPad 活用によるどこでも端末…。それらの活躍が感じられるiSUC第10回の記念大会には、新世紀の序奏曲が流れているのです。

1999

この年(1999)平成11年… コソボ紛争でNATO空爆 松坂大輔投手プロデビュー
日本初脳死臓器移植 2000年問題直前… どんな年になるでしょう…

21世紀への序奏としての第10回

第10回記念の今大会では、福岡シーホークを会場に、約155のセッションやiSUCモール(デモ・コーナー)さまざまな記念アトラクションなどをご用意して皆さまをお迎えます。

目玉の一つは、IBMトロン研究所のJava開発者自らが解説する「AS/400アプリケーション開発の世界」。一連のセッションを受講すれば、あなたもきっと明日からJavaプログラマーになれるでしょう。

セッションではe-business関連、ナレッジ・マネジメント、話題のLinux、モバイル、WorkPad、システム管理、音声、ERP、セキュリティ、ISO、ネットワーク、データベース、SCM、ロータスノーツドミノ、CRM、インターネットといった多数のジャンルに、必ず役だつセッションが目白押し。

マネジメント向けセッションも、リスク・マネジメントから風水まで多方面に充実しています。

また、昨年に引き続き、AS/400の生みの親、フランク・G・ソルティス氏をゲストに迎え、ソルティス氏を囲んでのQ&Aも企画しています。

さらに、各地区のIBMユーザー研究会でシステム研究会の活動が活発化していますが、第10回iSUCでは、システム研究会13チームの研究発表を予定しています。

大会では、モバイル新時代を体感していただくべく、WorkPadのモニター・プログラムを計画しています。日本IBMの協力により、モニター申込先着500名さまにモニター価格でWorkPadをご提供。この端末にご自身の名刺情報などを登録して、会場では赤外線を使ってスマートに名刺交換を。そのほか、セッション情報や時刻表、会場マップなどの情報をWorkPadで使いこなし、e-business時代のインタラクティブなコンファレンスをお楽しみください。

皆さん、第10回iSUCの会場で、新しい時代の第一発見者になりましょう。

第10回iSUC 実行委員

実行委員長 ㈱山種システムサイエンス 杉本 久
事務局長 日信電子サービス(株) 皆上秀樹
実行委員 (有)オオワダシステム開発 大和田和巳
オフィス本田プランニング 本田正法
花王(株) 安藤俊幸
㈱コスモスライフ 大西雄三
三菱石油(株) 石田 薫
中興化成工業(株) 森 博隆
㈱月虎 小畑絹江
㈱ティージー情報ネットワーク 須藤 勝
㈱テレビ東京システム 神田智夫
中川(株) 中川雅雄
日本フィリップス(株) 西村佳洋
バクスター(株) 増川重之

実行委員 ㈱フジタ 久保山祐児
丸八倉庫(株) 峯島一郎
㈱宮豪 丸谷哲司
睦物産(株) 加藤智明
i S P C (iSUC Special Promotion Committee)
㈱アロマカラー 西條一男
カンロ(株) 藤谷 巖
㈱シイエスシイ 宗万 裕
㈱鉄道会館 久保義弘
㈱ビー・エス・ジャパン 上野政男
㈱ニッポンダイナミックシステムズ 平山正孝
フジタ製薬(株) 藤田昌弘
㈱ホテル小田急 竹久保忠幸



真剣で温かい人たちの集い

佐伯達之 日本アイ・ピー・エム(株)取締役副社長

1990年10月、つま恋における第1回iSUC開催に向け、日夜奔走したことがつい昨日のこのように思い出されます。私は1980年の後半から、GB担当、ISGAM担当、そして日本アイ・ピー・エム情報システム株式会社の社長として、長期にわたり中堅企業のお客さまに大変お世話になりました。私の36年のIBM人生の半分以上を、UI会と呼ばれるユーザー会の皆さまやゼネラル・ビジネスのお客さまと一緒させていただいたこととなります。その間、常に感銘を受けたことは、経営者の皆さまが懸命にコンピューターを勉強され、情報システムを自ら経営に活用されてこられたということです。UI会は真剣で、それでいて温かい人たちの集まりでした。iSUCは、第1回からそういうメンバーの方々でつくられた、真の意味で、お客さまによる、お客さまのための会として年々発展してこられました。第10回の節目を迎えられたiSUC開催を心よりお祝い申し上げます。



相互扶助の精神に感銘

加藤 章 ゼネラル・ビジネス・サービス(株)代表取締役

iSUCは、中小型システムの情報をユーザー間で均等に共有しようということでスタートしました。私は日本アイ・ピー・エムの営業推進本部長として立ち上げ当初からお手伝いしましたが、創立期の皆さまが既に先進的ユーザーで情報を先んじて得やすい立場にありながら、他社の皆さまの情報格差解消のため心を砕かれていることに深く感銘を受けました。iSUCを支え続けてきたその相互扶助の精神を大切にしながら、10回という節目を機にWeb時代におけるiSUCのあるべき姿について議論を深め、新しい世代に引き継ぎながら一層発展されるよう祈っています。



常に新鮮な空気を送り続けて

上野政男 (株)テレビ東京システム 常務取締役
/ 現：(株)ピー・エス・ジャパン 総務本部

私は、第1回iSUCを立ち上げる前から携わり、第3回(浜松)の事務局長を担当しました。何百人もの会の運営はめったに経験できることではなく、それも相手がお互いの見知らぬ人たちばかりですから、緊張もし、努力もしました。おかげさまでiSUCは毎回評判がよく、認知度も高まって10回を迎えることになりました。これは、実行委員交代に当たって常にいい人に繋いで新しい空気を送り続けてきたからでしょう。これからもマンネリ化せず、最前線で活躍する人たちの新鮮な出会いの場であり続けてほしいと願います。



積極的に参加し多くのものを吸収

高階純司 (株)竹中土木 情報システム部情報システム課長
/ 現：(株)アサヒファシリティマネジメント 情報企画室次長

自分をさらけ出し、それ以上のものを吸収できるのがiSUCです。私は第4回(神戸)以来、事例発表を続けましたが、参加者から意見やヒントをいただくこともあり、いい勉強になりました。ノーツについて、導入の奮闘記、翌年は実践編、そして一般向けに入門編をしたところ大変な反響があり、方々で質問責めに合いました。第6回(浜松)で事務局長をしてみても、全体を見ることの重要さ、ボランティア精神の本質を実感しました。オープンな交流の場としてのiSUCが10年間に培ってきたスキルを、新しい人たちに活用してほしいと思います。



出会いは続き、さらに広がる

鍋島利彦 共和コンクリート工業(株)電算室室長

iSUCの良さの一つは、会った時から仲間となり友人となれることです。それは開催中の3日間に終わらず、出張移動中に声を掛けられたり、札幌に来られたときの夜の語り等、出会いは続き、さらに広がり深まります。思えばiSUCとは「つま恋」(第2回)からのかわりです。当時、セッションでの時間配分を誤り、途中省略・中抜けのお話となり、聴衆の皆さまには申し訳なく、反省しきりです。その後コンピューター部門の仕事も兼ねるようになり、第5回、第8回の札幌開催を経ていくうちに、iSUCに「はまって」今日に至っています。iSUCは自己啓発・技術習得の場として定着していますが、私にとっては、この3日間で自身のリストラの時、皆さまと再会できる時と考えています。11月の福岡で、See You!



自分たちの手で成功させる満足感

大淵正博 アスティ(株)経理部部長代理

iSUCの実行委員として活動したのは、第6回アクティシティ浜松での開催と、第7回博多シーホークでの開催の時でした。特に、第6回の開催地は、地元浜松とあって張り切っていたのですが、なにぶん勝手が分からず右往左往してしまい、周りの人にずいぶん助けられました。

iSUCでの、人と人のふれあいの大切さや、自分たちの手で成功させたという満足感は、自ら飛び込まないとわからないかもしれませんが、実行委員として内側から僅かばかりのお手伝いさせていただいて、名実ともにユーザーのためのユーザーのコンファレンスだということを実感いたしました。今回、この記念すべき第10回を迎えるに当たり、今まで以上の素晴らしい大会になることを願ってやみません。



iSUCと私

(株)資生堂 上野幸子

初めてのiSUCでは、期待と緊張感を持って臨みましたが、運営されている方々の人柄とご尽力のおかげでしょうか、実際は堅苦しくなくフレンドリーな大会で、肩の力も抜け大変楽しく参加できました。昼間のセッションでは新しい知識をどんどん吸収し、夜の集いではアルコールを大量に吸収させていただきました。

iSUCには毎回さまざまな方々との貴重な出会いの場を提供いただき、感謝しております。



我がiSUCライフ

日本電通建設(株)
上 敏郎

10周年おめでとうございます！ 毎回、「お客様満足とは？ * 効率経営とは？ * New Businessのヒント？」等々理屈をつけ会社を飛び出しますが、iSUCは私にささやきます。「コペルニクスさん、地球はまわっていますよ」。大会は情報、アイデア、新技術が溢れていて触発されることばかりです。

主催者側の「iSUC」への思いなどお構いなしに、マイペースで楽しんでます。参加8年になります。が陰で支えてこられたスタッフ、ボランティアの方々に感謝をこめて、「ありがとうございます」。

システム担当者の強い味方

大協物産(株) 古野隆俊

iSUCには、1回目から参加しています。最初のころは熱気があり、私のように一人で会社のシステムを面倒見ている者としては本当にありがたい存在でした。夕食会は情報交換で盛り上がり、帰社後は仕入れた情報を早くシステムに取り入れたくてうずうずしていました。10周年を迎えたiSUC、これからはリクワイアメントやユーザー同志のお助け掲示板とか通常ネットで情報交換しているメンバーの年一度の交流会みたいになっていけばと思っています。



(筆者右から3番目)



情報が詰まった一冊の本

(財)化学及血
清療法研究所
坂本勝郎

第9回名古屋大会で初めてiSUCに参加した。カンファレンスということで堅苦しいイメージを持っていたが、技術セッションを始め、経営、歴史、地域、情報等の文化的な内容も多く盛り込まれた多彩さに、そのイメージはすぐに払拭された。「研究会へ参加した」というより、「様々な情報がぎっしりと詰まった一冊の本を読んだ」という感じの3日間だった。

福岡大会はどんな「プレス」になるのか？ 今から非常に楽しみである。

iSUCから生まれた「友の会」

メモレックス・テレックス(株)
柳元宏司

知る人ぞ知る「中央区友の会」。第2回iSUCの帰りの車中で、第1回iSUCの宿泊ロジヤや懇親会で知り合った仲間たちと1年ぶりに再会した若人達(当時?)が、たまたま、みんなその時会社が中央区にあったことで、この名の会が誕生しました。あれから早10年、会社を変った人、会社が中央区から移った人、AS / 400から離れた人、AS / 400にカムバックした人等、色々ですが、iSUCと共に続いています。

iSUCは人材・知識の宝庫

(株)スズケン整備 伊藤清美

私は、2000年問題対応の為、機器更新が決まり活用を考えている時に、担当営業からiSUCを知らされ、第8回札幌大会に参加したのが始まりです。iSUCはセッションが充実しており、受講選択に悩むほどでした。懇親会では、同じ仕事の仲間という連帯感からか話はずみませんでした。システムについて色々なアドバイスも受け、自社のシステム・レベルが分かり、今後の展開を考えさせられました。私にとってiSUCは人材・知識の宝庫です。



(筆者はカメラマンでした)

信義則

iSUCでは信義則の遵守が大会参加資格として要請されます。大会会場において、以下の信義則の違背行為が認められた場合、大会主催者は参加資格の停止を含む必要な措置を取る権限を留保します。

守秘義務と著作権に関して

iSUC会場内において提供される情報は、原則として参加会員間の内部情報です。従って外部への公表は差し控えていただきます。また配布されました資料の扱いにつきましては、著作権法等の侵害行為がなされないようご注意ください。また大会内容に関わる報道、出版行為については、大会主催者による事前承認が必要です。

営利活動の禁止

iSUC会場においての宣伝広告活動や販売活動、求人、求職活動は禁止されています。カタログや会社案内の配布等をご遠慮ください。参加者の自己研鑽や会員相互の情報交換、技能研修の場にふさわしい会場環境を維持するためです。

友好的、互恵的な交流

大会会場は、互恵的、双務的な情報交換の場です。利己的、片務的な情報収集、例えば競合他社の企業情報の収集などの行為は、絶対に行なわないでください。善意の会員の積極的な参加を助長するために、遵守されなければならない最も大切なルールです。

iSUC名物

「信義則スキット」



第5回 「天使のささやき」
あなたの耳もとに、天使がそっとささやきます。



第6回 「カルメン」
音楽の街・浜松らしく、オペレッタ風に熱演。



第7回 「水戸黄門」
「この印籠が目に入らぬかーっ！」
ご存じ黄門様ご一行が登場。

信義則を大会参加者にわかりやすく説明するため、第5回大会から実行委員による寸劇形式が取り入れられました。ユニークな舞台は、いまやiSUCの名物となっています。

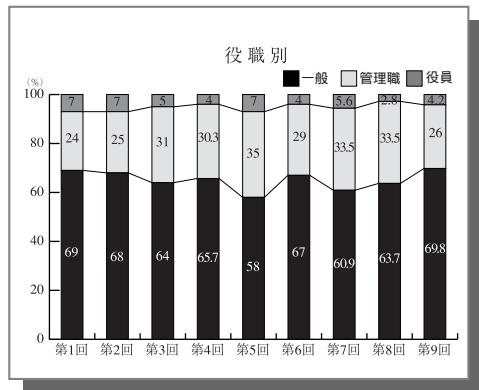
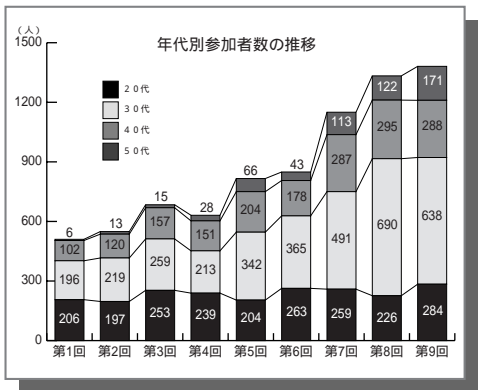
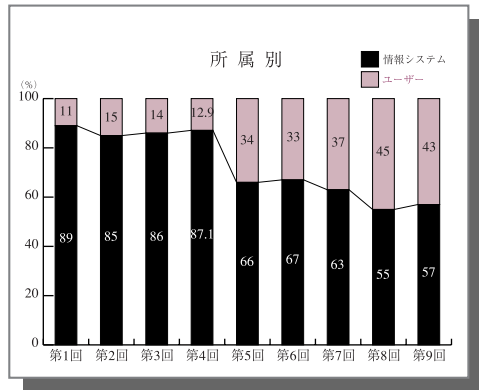
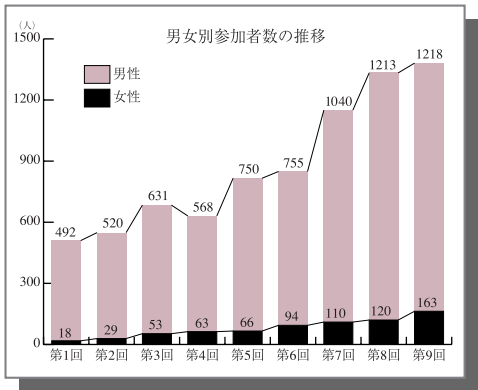
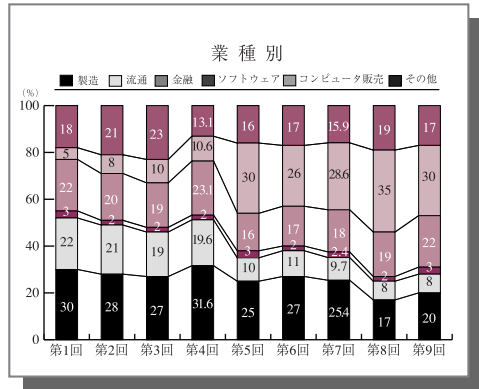
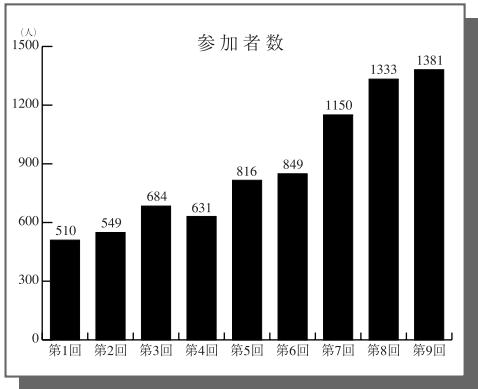


第8回 「天女の羽衣」
貧しい漁師のところへ美しい天女たちが舞い降りてきて…。



第9回 「OSの魔法使い」
願いをかなえてくれるというOSの魔法使いを探して、ドロシーたちは旅をします。

第10回はどんな舞台になるでしょう。お楽しみに…。



iES (Information Exchange Session)

iSUCでは初日の懇親会をiESと呼び、参加者の皆さんがお互いに情報交換をするセッションとして位置付けています。iSUC仲間の輪を広げてください。

呼びかけセッション

突然思いついた疑問もみんなに呼びかけてすぐ解決を。大会期間中に参加者に呼びかけてセッションを開催できます。参加者みんなで作るiSUCにいきましょう!!

ディスカッション・セッション

講座を聴くだけのセッションではなく双方向の討論会に参加して、同じ悩みを持つ仲間の中から解決法をみつけてみませんか。

iSUCモール

IBMおよびビジネス・パートナーが最新のソリューションを展示するコーナーです。参加者の情報収集、出展社との活発な情報交換の場として、きっとあなたのお役に立つはず!!

リクワイアメント

リクワイアメントは、IBM製品の機能改善 / 拡張および新製品の開発に対する皆さんの要求のことです。iSUCの大きな柱のひとつでもあります。iSUC参加者の皆さんで意見を出し合いユーザー・ニーズをIBM社に提案しましょう。

iSUCフォーラム

リクワイアメントとは別に今回から開設しました。皆さんの問題解決、意見交換の場として積極的にご活用ください。全国IBMユーザー研究会会員の皆さんが自由に参加できるホームページに設けた電子会議室です。IBM中小型機に関する質問、要望をフォーラムにぶつけてみてはいかがでしょうか。

ふれあい広場

iESのほかに、もっと意見交換を、という方のためにふれあい広場が用意されました。各回毎に開催方法は異なります。

信義則

iSUCには細かな規制は特にありませんが、最低これだけは守って欲しいという約束ごとが信義則です。

信義則スキット

信義則を楽しく理解していただくための寸劇です。毎回趣向を凝らした内容で、iSUC実行委員の芸達者が演じます。オープニング・セッションでお楽しみいただけます。

サポーター

iSUCは参加者のボランティアを中心に運営されています。大会期間中、運営をサポートしていただける方をサポーターと言います。セッション運営をお手伝いしてくれるセッション・サポーターをはじめ、写真撮影、受付、誘導、中には実行委員と行動を共にする実行委員サポーターなど、どなたにもできる簡単な内容です。恥ずかしがらずにぜひiSUCの運営に携わってください。



iES、グラスを片手に「はじめまして。」(第3回)

日本アイ・ピー・エム社長に内定した
当時の北城氏、若い。(第3回)



サッポロビール園で喉ごし爽快、
笑顔満開。(第8回)



チアリーダーも飛び出して、ヤッホー!(第7回)



問題とにらめっこ、
学生時代を思い出す。(第9回)



デモ・コーナーで最新情報
ゲットだぜ。(第8回)



出会いが広がる名刺交換コンテスト(第6回)



ゲストの皆さんと鏡開き。
よーおっ!(第9回)



「夢の電話・iSUC編」

(電話の音)ルルル、ルルル カシャ

男: あっ、もしもし。例のiSUCとかいうコンファレンスの案内、まだうちに来ていないんだけど、どうなっているの?

女: はい、iSUCにつきましてはユーザー会の機関誌やDMなどでご案内しておりますが、会員様のご担当部門あてになっていきますので、行き渡らない場合もあるとうかがっています。その場合は、インターネットのホームページをご覧くださいだと思います。

男: (なかなか感じのいい子だね、と受話器を取り直しながら) iSUCの案内は、パソコンを買った代理店からFAXしてもらったところなの。パソコンは部の予算でバンバン買ったから、部門実績なんかシステムに頼まなくても1-2-3でチョチョイとレポートできて便利なんだよね。そしたら、今度社長が、グループウェアとかを入れて全社的にシステムを作り直させて号令をかけちゃってさ。

女: (やや長電話の予感。学生のころからイイ声だと持ち上げられてきたけど、あまり無駄遣いはしたくないと思いながら) そうですか。

男: そしたら、システムが、どんな機種が何台あり、どんな業務に使用しているか報告せよときたもんだ。これまで放ったらかしにしていたのに。

女: (いきなりセールス口調で) グループウェアは経営の効率化に役立ちますので、ぜひご利用ください。

男: そうそう、うちのコンピューターはAS/400とかいうんだけど、これはいい品らしいね。同業仲間でも評判いいよ。注文取りから在庫、返品、ポチとかミケとかいうのもやっちゃうんだってね。



女: POSですね。

男: それはそうと、各部門は自分のとこの業務を整理してシステムへの要求項目を提出しろってシステム部が言ってきたわけ。OSの選定からミッドウェア、これは何ですか? 海戦もののゲーム? ともなく、ユーザー部門で明記すべきチェックリストとして専門用語満載の紙を渡されて、まいっちゃってさ。それで、パソコン買った代理店に電話をしたら、iSUCの案内をFAXしますって。あの子、みどころがあるな。

女: はい、iSUCはとても勉強になるとご好評をいただいています。

男: なになにに、いま資料を見ているんだけど参加費が5万3000円か。福岡のシーホークが会場で、しかもこれだけ盛りだくさんの内容で、安いな。インターネットECとか、データウェアハウスとかチェック・リストにも書いてあったし。この前、欲しいなと思ったWorkPadも使えるんだ。これ、すぐに申し込みたいんだけど、どど、どうすればいいの。



女: あの一、お客さま……(ようやく私の出番よ) iSUCについてご説明させていただきます。

iSUCは、IBMユーザーの任意団体である全国IBMユーザー研究会連合会(全国研)が主催する、教育と情報交換を目的とした非営利のコンファレンスです。参加会員にご負担いただくのは、参加費5万3000円に加えて宿泊・交通費、食費などの実費のみです。それ以外の経費は、全国研予算および日本アイ・ビー・エムからの寄付でまかなわれます。多くの方に参加いただけるよう、参加費を切り下げるためさまざまな工夫をしています。コンファレンスの企画、準備、運営は、主として会員有志のボランティア活動で実施しており、実行委員の方々は準備のため1年間にわたり無報酬で多くの時間をさいてくださいます。セッション講師も、感謝の気持ちとして記念品をさしあげますが無報酬です。米国から講師として来日するIBM社員も、IBM社の好意によるものです。IBM社は、iSUCへの協力を社会貢献活動の一環としてとらえており、多大な支援を惜しみません。セッションもパライターに富み、IBM製品に偏ることなく、広くコンピューター利用についての知識や情報が提供されます。

男: ふーむ、すごいね。(この女性、なかなか説明がうまい。うちの営業にもこんな子がいるといいな)

女: iESと呼ばれるパーティーは、親睦、情報交換の場であり、そして特に若い参加者を意識したモチベーションのための公式行事です。日本アイ・ビー・エムの役員もノーネクタイで参加され、参加者と自由闊達な交流を繰り広げます。

男: 聞けば聞くほど素晴らしい催し物だね。これが今回で10回目か。知らなかった。うちのシステム部の連中はいつも参加しているのかな。ちょっと聞きにいった、一緒に連れてってもらおう。いやー、いい話を聞きました。助かります。あなたの声もよかった。ありがとう。

女: どういたしまして。会場でお目にかかれましてを楽しみにしています。では、失礼します。カシャッ

これはフィクションであり、実在する人物・団体等とは関係ありません。